

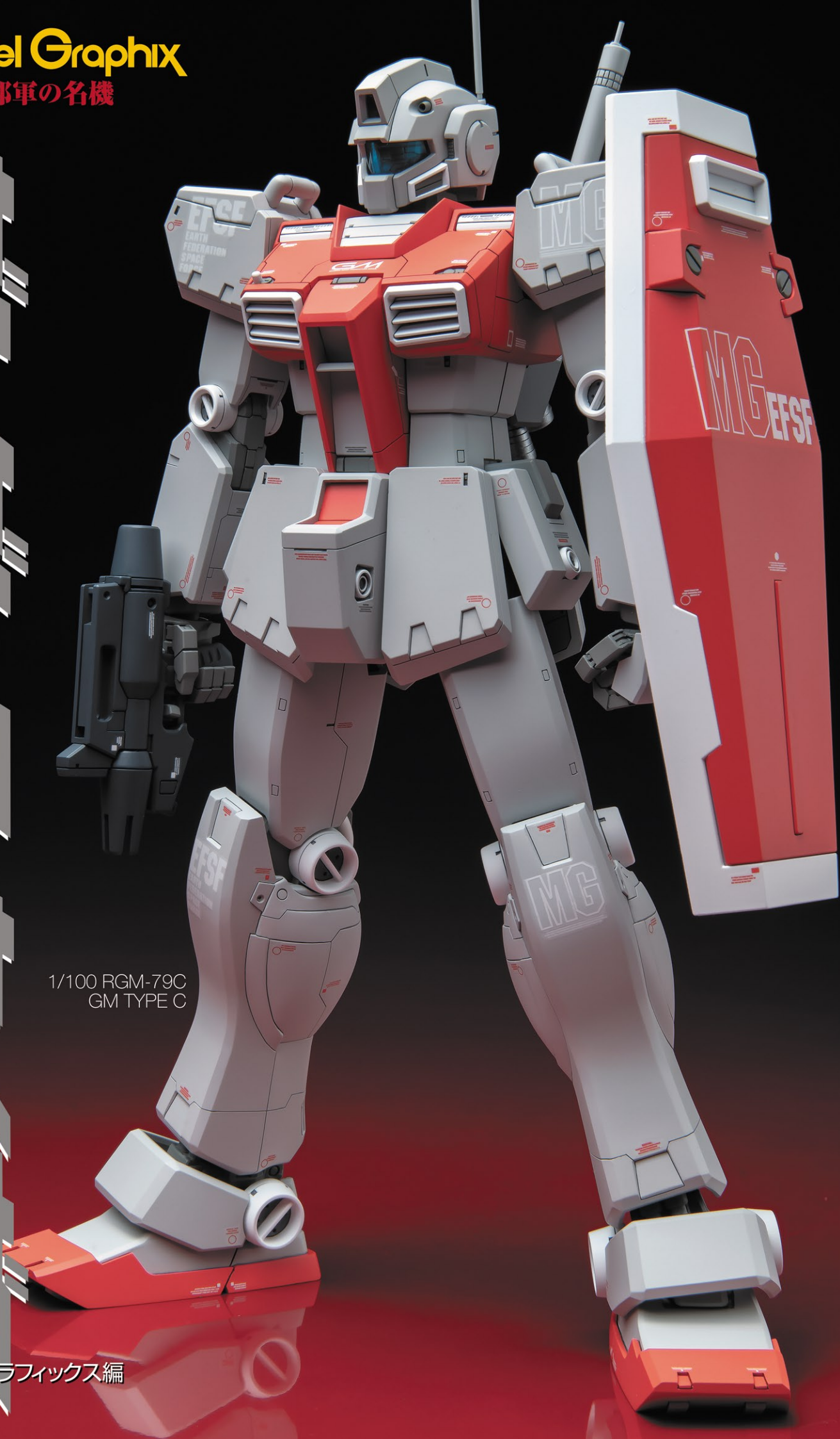
Model Graphix

地球連邦軍の名機

モデルグラフィックス

1/100 RGM-79C
GM TYPE C

モデルグラフィックス編
大日本絵画



Model Graphix

ガンダム アーカイヴス

地球連邦軍の名機

月刊モデルグラフィックス編

大日本絵画

Model Graphix ガンダム スカイヴス

地球連邦軍の名機

月刊モデルグラフィックス編

‘85年に創刊した模型専門雑誌『月刊モデルグラフィックス』には創刊当初より数々のガンダム作例やスクラッチビルド作例が掲載され続けていますが、本書はその膨大な作例群のなかから地球連邦軍系機体を題材とする作例をピックアップしまとめたものです。なお、本書内でのガンダム世界考証は模型を楽しむための独自のもので、公式設定を下敷きにしていますが、サンライズ公式設定ではないことをお断りいたします。

* 本書では基本的に雑誌掲載当時の記事表記に準拠するようにしています。そのため、「本誌」=『月刊モデルグラフィックス』、「MG」=マスターグレード、「PG」=パーフェクトグレード、「センチネル」=ガンダムセンチネルの略となっています。また、記事中にあるマテリアルやキットに関する表記は雑誌掲載当時のままとなっているため、現在は販売が停止されていたり名称が変更になっていたたり価格が改訂されていたりする場合があります。また、プレミアムバンダイ販売アイテムは購入受付けを終了している場合があります。悪しからずご了承ください。




© 創通・サンライズ

Contents;

RX-78-2 ガンダム Ver.2.0 (BANDAI SPIRITS 1/144 RG) 製作/Tom-K	4
RX-77-02 ガンキャノン(ケクルス・ドアン)の島版) (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/フジィ	18
RGM-79S ジム・スバルタン RGM-79 ジム (スレッガー搭乗機) (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/フジィ	22
RGM-79V ジム・ナイトシーカー ヴァースキ機 (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/masaki	33
RX-81ST ジーラインスタンダードアーマー (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/堀越智弘	36
FA-78-1 フルアーマーガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/堀越智弘	42
RX-78-2 ガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 EG) 製作/内藤あんも	50
RX-93 ヲガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 EG) 製作/ken16w	56
PF-78-1 パーフェクトガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 EG改造) 製作/アーリーチョップ!	60
FA-93 HWS ヲガンダム HWS (BANDAI SPIRITS 1/144 EG改造) 製作/ken16w	68
RX-93ff ヲガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 RG) 製作/朱鳥@カワグチ	72
〃 (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/けーくる	76
連邦の名機	82
RGM-79C ジム改 (BANDAI SPIRITS 1/100 MG改造) 製作/ken16w	88
RGM-79N ジム・カスタム (BANDAI SPIRITS 1/100 MG改造) 製作/堀越智弘	100
RGM-79N ジム・カスタム (BANDAI SPIRITS 1/100 MG改造) 製作/ぬっきー	104
RMS-106 ハイザック (BANDAI SPIRITS 1/100 MG改造) 製作/黒川りく	108
RGM-89S スタークジェガン (BANDAI SPIRITS 1/100 MG改造) 製作/Sander	114





初代RG RX-78-2 ガンダムの発売でRG（リアルグレード）シリーズがスタートしたのが'10年。切り出して折り曲げるだけでできあがるアドヴァンスドMSジョイントのフレーム構造の採用はとても斬新で、それまでになかったようなディテールフルなアレンジはその後のガンブラやモデラーの作風に大きな影響を与えた。それから14年、ついにRGは新たなステージへと踏み出す。RG RX-78-2 ガンダム Ver.2.0の製品化である。

初代RG ガンダムは、同時期に東京お台場に建造された1/1のガンダムをイメージソースとして、“実在するガンダムのリアル”を1/144という小さな立体物に凝縮したものだったが、このRG Ver.2.0にはそのようなモチーフはない。ではどこを目指したかと言えば、それは原点であるアニメのイメージと徹底した考証。外観アレンジのディテールフルなところだけを見ればアニメ設定のガンダムとは別物に思えるかもしれない。でも、組み立てて動かしてみれば「これぞガンダム！」とヒザを打ちたくなる。原点への限りないリスペクト、あるいは深いガンダム愛。言い方はさておき、「こういうガンダムが作りたかった！」という意思に溢れたキットとなったRG Ver.2.0、ここではモデラーが丹精込めて仕上げた作例をご覧くださいことにしよう。

Model Graphix
2025年1月号
掲載

RG RX-78-2 ガンダム Ver.2.0
BANDAI SPIRITS 1/144
インジェクションプラスチックキット
発売中 税込3850円
出典／『機動戦士ガンダム』
製作・文／Tom-K

ド R X - 7 8 - 2 ガ ン ダ ム V e r . 2 . 0

ガンプラの“リアル”、新たなステージへ

新 生 。 リ ア ル グ レ ー

RG Ver.2.0

1/144 ガンプラのフラッグシップであるRGシリーズのRX-78-2 ガンダムがVer.2.0としてリニューアルされました！ RGらしいメカニカルな表現と可動ギミックと、原典をイメージしたカッコよさのバランスがすばらしい最新のRX-78-2 ガンダムを、テストショットで詳しく紹介していきます!!

**“普通に”カッコいいガンダムを
驚くべきバランス感で立体化
RG Ver.2.0、登場!**



RG RX-78-2 ガンダム
Ver.2.0
(1/144 発売中 税込3850円
出典／『機動戦士ガンダム』)

5年に一度くらいのペースでやってくる「1/144 RX・78・2ガンダム」のガンダムのリニューアル」というイベント、今度はどうなるのかと毎回ドキドキするが、今回もいい意味で裏切られ、驚いた。

このRGガンダムVer.2.0は、コア・ブロックが折れ曲がって腹部が可動する、腕が驚くほど上まで上げられるなどの新要素がてんこ盛りなのだが、じつは自分が驚いたのはそこではない。「新要素をふんだんに取り入れつつ、いい意味でコンサバ（コンサバティブ＝保守的）に、とてもうまくまとめられている」ところ、その完成度の高さに驚かされたのだ。もちろん「保守的」というのもマイナスなイメージではなく、「アニメのイメージ再現」と「歴代ガンダムのガンダムのギミックやアレンジがものすこしちゃんと踏まえられている」ということである。

「アニメイメージのやや太身で力強い立ち姿」、「ディテールフルでありながら悪目立ちさせないアレンジの妙」、「アニメ劇中から抜け出てきたような戦闘ポーズ再現」、これら3つの要素は歴代のガンダムのガンダムでいろいろな試行錯誤がされてきた。初代PG、初代RG、PGUなど、ふたつを同時に実現したガンダムのはいくつもあったが、この3つの要素を同時に、しかもここまで完成度が高くバランスさせた例はこれまでになかったように思う。

当初、RGといえば「ガンダム独自のアレンジを楽しむシリーズ」というイメージが強かった。「アニメのアレとは別物だけど、むしろそこがカッコいい！」という楽しみ方だ。ただ、その別物感がどうしてもひっかかるモデル、とくにベテランのモデラーも多くはたがはずだ。そんなところに現れたこのRG Ver.2.0。「こういうものを待っていた！」というファンは思いのほか多いのではなからうか。かくいう自分もそのなかのひとりである。このスツと腑に落ちてワクワクして作りたくなる感じは、思い返せば初代PGガンダム以来かもしれない。今後のRGシリーズにも期待が広がる新展開である。（文／森慎二）

これぞまさに“温故知新”。新解釈、技術の積み重ね、 原典イメージ再現、の絶妙なバランスに舌を巻く

- 顔は比較的柔和なイメージで、頭部外装は丸みを帯びたフォルムになっている。胸の黄色いダクトは台形より長方形に近いアレンジ
- ビーム・ライフル、シールド、ハイパー・バズーカ、ビーム・サーベル2本が付属。ビーム・ライフル、ハイパー・バズーカは腰背部に取り付け可能で、ジョイント部を引き出し式にすることで外観とギミックを両立。シールドはランドセル中央のフック状ディテールに取り付け可能で、これも外観を損ねないよう工夫されている



トラディショナルな ガンダムのカッコよさと 新しいアレンジの融合

- 正面や上方から見ると、腕や脚が長めな今風にスマートなイメージだが、下から見上げるようにすると、P・83のようになって太身で、これを「ガンダム」といふくらいに力強く見えるバランスになっている



RG Ver.2.0
2024

- RGガンダムVer.2.0のフォルムは、初代PG以降の00年代にトレンドとなった骨太なアニメのガンダムのバランスに回帰したように見える。もちろん懐古趣味的なものではなく、RG的な外装をツートーンで色分けするアレンジや、PGUガンダムのようなフレーム露出ディテール、丸い頭部アレンジなど、新しいトレンドも随所に取り入れられていて、新旧ガンダムのガンダムのアレンジを巧みに融合しているのがおもしろい

RX-78

▶ガンブラだと意外とできないことが多かった右写真のようなシールドの持たせ方もできるようになった。ハンドパーツがこの持ち方に対応しただけでなく本体側もシールド側も可動部の保持力が高いのでしっかり持てる



ハンドパーツには伸縮する新機構搭載

◀1/144ガンブラの武装類を保持する持ち手パーツは、いったん手甲を分解して持たせるタイプが主流だが、RG Ver.2.0では指がスライドして広がることで、ハンドパーツをばらさずに武器類を持ち換えられるように工夫されている。左写真は、指パーツのスライド部を見せるため、あえて手の手甲を外したところ



この配慮は地味にうれしい！

▶ベース接続用の穴が背部と腰背部にふたつ用意されていて、両方とも可動するカバー状パーツで隠せるようになっているのは、地味なところながらとてもうれしいポイント。ポーズに合わせてベースのアームを目立たせずに飾れるのだ



初代RG

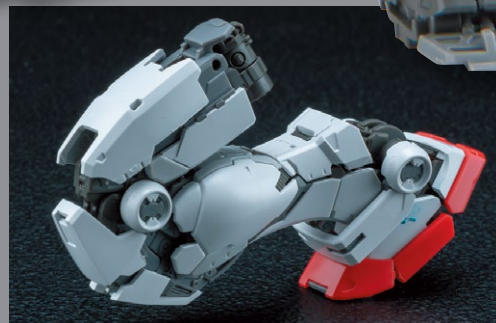
▲初代RGは、システムインジェクションのアドヴァンスドMSジョイントを使った全身フレームが搭載されたが、RG Ver.2.0は近作のMGのフレームを小型化したようなものとなり、多層的にパーツを重ねてセミモノコック構造を形作る。いちばんの大きな違いはコア・ブロック部で、初代RGは、可変式コア・ブロックと可動式フレームの差し替え式だったが、RG 2.0では、それ自体が可動するコア・ブロック内蔵式となっている



▲初代RGの全身フレームとは違い、外装を外してもほぼガンダムのアウトラインを保つRG Ver.2.0のフレーム。非常に細密なメカディテールが施されていて、「リアルグレード」の面目躍如といったところだ

圧倒的密度感のメカディテール びっしりな全身フレーム構造

▼首は2軸+ボールジョイントで可動。大きく上を向かせることができるようになっている



▲ガンブラのガンダムの脚は、ヒザが180度近くまで曲がって立てヒザもできるのがすでに普通だが、RG Ver.2.0ではさらに曲がり方の質を向上。ちゃんと円筒部(いわゆるマルイチ部)のところが軸として可動し、外装のアウトラインのきれいな、足首の曲がり方の自然さに磨きがかかった
▶思い切った新アレンジとして、大きく曲げたときに足首後面の外装が開くギミックを搭載



▲HG BEYOND GLOBALなどで搭載されていた、前腕が折れるように可動するギミックを搭載。ビーム・ライフルを両腕で構えるポーズやビーム・サーベルを引き抜くポーズをより自然に取れるようになっている。わずかな可動のようだがその効果は大きい



◀シールド裏のフレーム構造はモデラーがディテールを加える余地がないほど充実しており、メカニカルな表現とボリュームを楽しめる。特筆すべきはビーム・ライフルがシールド裏に収納できる点だろう。シールドと一緒に背中に背負わせることができる





「ラストシューティング」がもっとカッコよく！

●飾ってみたいガンダムのカッコいいポーズのひとつにいわゆる「ラストシューティング」があるが、肩ごとぐるっと回転させると肩アーマーが下側にきてしまっているようにみえる。RG Ver.2.0では、かなり大きく肩関節が引き出せるようになったので、カッコよく上を真上まで上げたポーズが取れるようになっているのだ

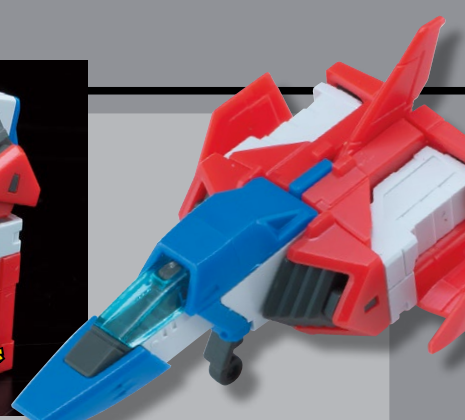


▲肩アーマーの前後面が開くので、腕を上げたときに肩アーマーが後方に回転せず自然にならないのもポイント。このギミックを活かせば、上左写真のように腕を真上に上げることにも可能。メカとしてはこっちのほうが自然な感じになる

コア・ブロック内で可動するのだ！

コア・ブロックが「折れ曲がる」!!

●RX-78-2 ガンダムをガンブラ化するときの難問がコア・ブロックで、これまで可変式コア・ブロックを内蔵するならば腹部は固定式なのあたりまだった。しかしRG Ver.2.0では、なんと可変式コア・ブロックが折れ曲がるギミックを1/144の限られたスペースに搭載。また、上/下半身が外れないように、背骨にあたる部分に可動するロック機構も設けられている



「こんなにうれしいことはない！」な、こだわりポイントが満載!!



回避



保持

大ぶりで飾り映えがする武装に込められたとまやかな配慮にも注目

▶RG Ver.2.0のうれしいポイントのひとつが、武器/シールドが大きめになったこと。ガンブラのガンダムの武器類は小ぶりなことが多いが、立体では大ぶりなほうが飾り映えする。なお、ハイパー・バズーカは砲身が伸縮する◀ランドセルのビーム・サーベルラックにもうれしいポイントが。基部で回転するようになっているので、前に傾ければきちんと持て、ハイパー・バズーカを肩に担ぐときには干渉しないように避けることができる。ハイパー・バズーカは思いのほか構えにくいデザインなのでうれしい工夫だ



シールドと武器が大きめ!



初代RG
2010



HG ガンダムG40
2019



HGUC No.191
2015



HGVer.G30th
2009



HGUC No.021
2001



FG
1999



初代HG
1990



初代1/144
1980

歴代の1/144 RX-78-2 ガンダムとPG/PGUを比べてみよう

●RG ガンダムVer.2.0のフォルムは、初代PG以降の'00年代にトレンドとなった骨太なアニメのガンダムのバランスに回帰したように見える。もちろん懐か趣味的なものではなく、RG的な外装をツートンで色分けするアレンジや、PGUガンダムのようなフレーム露出ディテール、丸い頭部アレンジなど、新しいトレンドも随所に取り入れられていて、新旧ガンダムのガンブラのアレンジを巧みに融合しているのがおもしろい

ために回帰しつつディテールアレンジは控えめ RG 2.0に1/144 ガンダムの新傾向を見る

●だいたい5年おきにリニューアルされてきた1/144のRX-78-2ガンダムのガンブラ。PGに準拠していたFGや初代HGUCあたりを境として徐々に細身なアレンジになっていったが、今回のRG Ver.2.0は、PGUに近いや太身でどしりとして力強い印象となった。いっぽうで、ユニット形状のアレンジやディテールの追加はPGUと比べると控えめ。RGというと「アレンジ強めでアニメの印象とは別物」をイメージされる方も多いかもしれないが、このRG ガンダム Ver.2.0は、アニメ設定や劇中の雰囲気をしっかりとしにまどっている



PGU
2020



初代PG
2000



RX-78F00
2020



EG
2021



HG BEYOND GLOBAL
2020



HG THE ORIGIN
2020

●PGU ガンダムの流れを汲む、過度に太身に重厚な印象へと回帰したRGガンダム Ver.2.0。RGということでディテールなアレンジとなっているが、元の意匠を逸脱しすぎない絶妙なバランスで、「これをRX-78-2」という佇まいを楽しむことができる。その真骨頂である可動については、次の見開きでじっくりとご覧いただく



●RG ガンダム Ver.2.0は、変形するコア・ファイターを内蔵できるようになっている。コア・ブロックを内蔵するガンダムのガンブラでは、腹部の可動をどうするかが難題で、これまでもいろいろな解決法が考えられてきているが、RG ガンダム Ver.2.0では思い切って、コア・ブロック自体が折れ曲がる構造を採用。どう折れるかは、P65の写真を参照

回帰と新機軸の見事な融合
RG Ver.2.0を作ろう！



1/144 RG RX-78-2 GUNDAM Ver.2.0

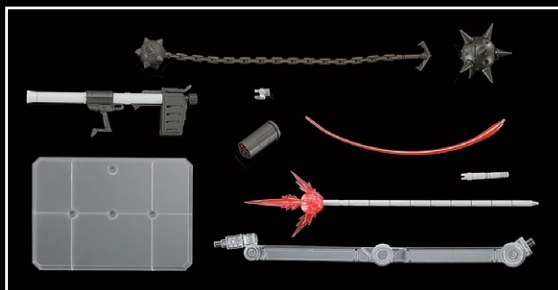






▼昨今のガンブラでは立てヒザができるのはもはやあたりまえだが、RG Ver.2.0ではさらに一歩先へ進み、「力強く自然な立てヒザ」ができるようになっている。大きく曲げてアウトラインが崩れないヒザ、足首の広い可動範囲、胴体の可動が組み合わせることでのような力強さが生み出される

▲誰しも一度は見たことがあるであろうビーム・ライフル両手持ちのガンダムの設定画だが、ガンブラで再現しようとする、じつはかなり難易度が高い。まずビーム・ライフルを両手持ちできるのが大前提だが、そこは近年のガンブラは難なくクリアできる。問題はそこからで、肩アーマーの位置をあの絵のようにするには、肩関節の自由度がかなり高くないといけない。そして、真正面のように微妙にひねられた胴体、前後に開きつつ弓なりに大地を踏みしめる両脚の雰囲気再現するには、可動と外装アウトラインの絶妙なバランスが必要不可欠だ。このに王立ちのビーム・ライフル構えポーズが、ガンブラでここまでビシッと、しかもあの絵のニュアンスで再現できるのは、相当すごいことなのである



▲ガンダム・ハンマーのチェーンは、インサート成型により、切り出すだけで可動するチェーンができあがる。可動部がほどよい遊びになっているので、だらりとたれ下からず形を決められるのは、これまでにない新機軸で、うれしいポイントだ
 ▲ハイパー・バズーカがあるのもポイント。これでもうひとつキットを買わずとも両手持ちが再現できる

こんなにうれしいことはない…… 武器セット同時発売！

●RG ガンダム Ver.2.0と同時に、RX-78-2 ガンダム Ver.2.0用武器セット（税込2200円 プレミアムバンダイ販売）も製品化！ 長いガンダムの歴史のなかでガンダムと同時に武器セットが単体で製品化されるのはこれが初めて。ガンダム・ハンマー、ハイパー・ハンマー換装用鉄球パーツ、スーパー・ナバーム、ビーム・ジャベリン、ビーム・サーベル用エフェクトパーツ、ハイパー・バズーカ、ハンマー保持用ジョイントパーツ、アクションベース7のセットで、ガンダムの多彩な武装をもれなく再現できる。とくに、チェーン部が進化したガンダム・ハンマーとビームがクリアーのビーム・ジャベリンがうれしい！

▼「ひとつ、ふたつ……」、ニュータイプとして覚醒したアムロがリック・ドムを撃破していくあのシーン、ガンブラで再現すると意外とカッコよく決まらないうが、RG Ver.2.0ならこのとおり。腕の微妙なニュアンス再現が効いている

▲ラストシューティングもガンダムのもっとも有名なポーズのひとつだが、問題は真上に上げる腕。ボールジョイントの肩関節だと上まで上がらないし、回転軸のみの肩関節だと肩外装が下向きに回転してしまう。そこでRG Ver.2.0では、胴体側4軸 / 肩側2軸の肩関節を採用することで大きく引き出せるようにし、同時に肩外装前後が独立して可動。自然に腕を真上に上げられるようになった

あのシーンも、このシーンも
新たな最高峰のアクションを堪能する！



9784499234269

ISBN978-4-499-23426-9 C0076 ¥4300E

定価(本体4,300円+税)



1920076043000



Model Graphix GUNDAM ARCHIVES
"MASTERPIECE
OF E.F.S.F."

© 創通・サンライズ

RG RX-78-2
GUNDAM Ver.2.0

